

「平安から鎌倉へ」－武士政権誕生の時代－

— 平成6年度 特別展の開催にあたって —

館長 中力 昭

岡山県立博物館では、平成6年度特別展、「平安から鎌倉へ－武士政権誕生の時代－」を、10月22日（土）から11月27日（日）まで、約1ヶ月間にわたり開催することになりました。

平安時代から鎌倉時代にかけては、古代律令制が崩壊し、華やかな国風文化の担い手でありました貴族を中心とする社会から軍事専門の勢力としての武士が社会的に台頭し、いわゆる武士の政権が誕生する大きな変革の時代でありました。平氏政権を経て源氏主流の鎌倉幕府が誕生すると、以後、江戸時代の終わりまで武士による政治の時代、すなわち、封建社会が七百年近くも続きました。

本年度の特別展では、源氏、平氏の合戦の様子や、武士社会の実態、鎌倉新仏教に見られる新たな精神生活の形成などに注目し、絵画、古文書、典籍、工芸品及び出土資料などを通して、古代から中世への移行期の社会を考えていただこうとするものです。

今回は厳島神社や高野山金剛峯寺をはじめ、関係各位の御好意により国宝8点、重要文化財13点など総計約100点の貴重な文化遺産が公開されます。二、三紹介しますと、厳島神社の国宝、「平家納経」は金銀の優美な金具をつけた表紙、見返しや本紙には金銀切箔あるいは文字を文様化した華やかな意匠がこらされ、軸は本軸や水晶軸等に各種の形の金銀の装飾金具をつけたり、美しい貝殻を散りばめた螺鈿で飾るなど現存する装飾経中の最高のもので、これを納める銅製の経箱も展示されます。

金剛峯寺に伝わる国宝、「宝簡集」は高野山内の諸寺より重要古文書を集録したもので、総数1780通に及ぶような大きな古文書群です。その中から平安時代末期の西行の書状、源義経の書状など4点が公開されます。

京都国立博物館に保管されている「餓鬼草紙」は鎌倉時代に制作されたものです。平安時代から鎌倉時代にかけて六道思想の普及した当時、布教のために作られたものと言われ、餓鬼の世界がいきいきと描かれています。本巻はかつて岡山市の曹源寺に伝来していたものです。

その他、中世仏教の担い手であり、岡山県に深い法然と重源の関係資料も多数公開します。

武家、公家、寺社の三者があいまって、形づくられた中世社会への移行期の歴史を把える手がかりとなれば幸いです。

終わりにになりましたが、今回の特別展への出品を快く御承諾くださいました所蔵者の方々をはじめ、御協力を賜りました皆様に心から御礼申し上げるとともに本展覧会への御感想、御意見をお寄せいただければ幸いです。



岡山県立博物館 平成6年度特別展 平安から鎌倉へ 武士政権誕生の時代



「平安から鎌倉へ」

— 武士政権誕生の時代 —

平成6. 10. 22~11. 27

今回の展覧会は、平安時代から鎌倉時代にかけての変革の時代を取り上げ、古代社会がどのようにして中世社会に移行していくのかを、今日に伝わる歴史的資料によりできるだけ具体的に紹介するものである。

この時代は、古代の律令制が変化し、貴族社会が揺らぎ、軍事専門の勢力として武士が、社会的に台頭していく変革の時代である。

1 平氏政権

土地制度のうえでは、荘園制が広がりをもせていくなかで、武士出身の平氏が、保元・平治の乱（12世紀中ごろ）を通して、その軍事力によって政権を樹立していった。この政権の位置づけをめぐっては、かつては、古代貴族的な評価がなされていたが、最近では、摂関政治や院政などと異なる武家政権の先駆けとしての性格が、注目されている。このことは、古代から中世への移行期をいつとするかという重要な問題を含んでいる。

ここでは、平氏政権を支える経済的基盤を知行国・荘園・日宋貿易として、とくに内海航路の整備や大輪田泊の構築など、西国を中心に海賊をも従えた平氏の政治力に注目したい。そして、平氏政権を単なる古代の遺制を引く貴族政権としてではなく、新たな武家政権への序章ととらえたい。

また、平清盛らが篤く信仰した厳島神社からは、「平家納経」やそれらを納める「金銀荘雲龍文銅製経箱」、平清



国宝 平家納経 広島 厳島神社

盛・頼盛合筆の「法華経」など国宝のかずかず、さらには重要文化財である厳島文書を借用して、平氏一門の文化遺産を紹介したい。

2 鎌倉幕府の成立

(1) 源平の合戦

軍事専門の勢力としての地位を固め、社会に浸透していった武士団の平氏と源氏は、治承・寿永の乱（12世紀後半）を通して、その覇権をめぐる争いを始めることになる。

平氏政権に対する反感は、藤原成親らによって引き起こされた鹿ヶ谷の陰謀に象徴されている。この事件の首謀者成親は、備前国に配流となり、最期を迎えた。このできごとは、『平家物語』や『源平盛衰記』に取り上げられ、源平合戦のさまざまな逸話とともに、地元岡山に広く知られている。

かねてより平氏追討をねらっていた源頼政が、後白河法皇の皇子以仁王の令旨を掲げ、源氏の決起をよびかけたのは、1180（治承4）年であった。以後およそ五年間、東国に根拠を持つ源氏のみならず、これに応じた大寺院の僧兵までも巻き込んだ、いわゆる源平の争乱が全国的にひろがったのである。

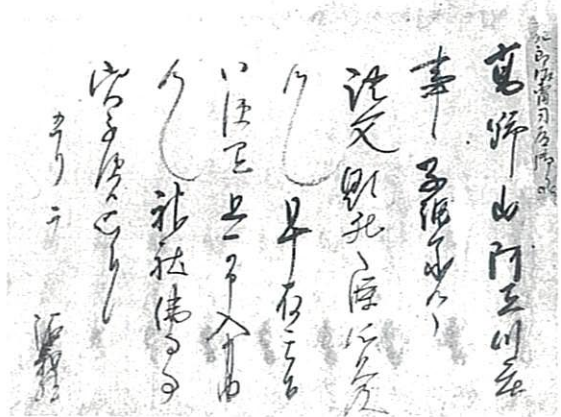
ここでは、物語や絵巻物・屏風絵などによって、一の谷・藤戸・屋島・壇ノ浦などよく知られた合戦のひとつを再現し、平氏滅亡までの過程を紹介してみようと思う。

(2) 鎌倉幕府

平氏追討の命を受けた源頼朝は、壇ノ浦で平氏一門を滅ぼし、鎌倉を根拠地として上洛の機会をうかがっていた。やがて、後白河法皇の死後、源頼朝は征夷大將軍となり、鎌倉幕府を開くことにより、名実ともに武士の棟梁としての立場を築きあげたのである。

鎌倉幕府の経済的基盤は、平氏のそれと同様、関東御分国・関東御領など、やはり荘園制にあった。そのうえで、御恩と奉公の関係からなる将軍と御家人との主従関係を結び付けていたのは、経済的収益権としてのいわゆる「職」である。

御恩としての本領安堵や新恩給与と、奉公としての京都大番役や鎌倉番役などの関係を、証拠として残しておくのが文書であり、中世の武家文書が、この時代を象徴するも



国宝 源義経書状（宝簡集第33）和歌山 金剛峯寺

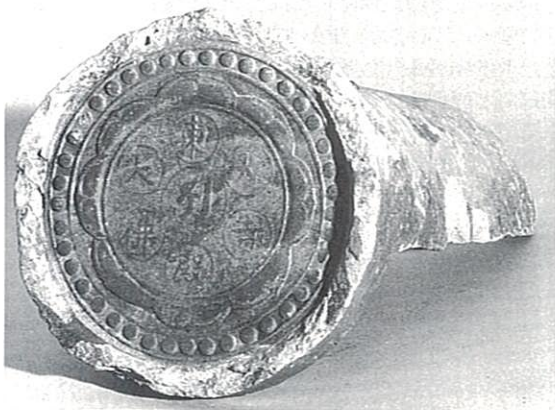
のといえる。そこで、将軍をはじめとした幕府の発給する文書の形態が、幕府の政治権力の移り変わりを示している点に注目してみたい。

ここでは、国宝の高野山文書（宝簡集）をはじめ、重要文化財の金山寺文書などを紹介する。また、源頼朝の花押がある文書や源義経の書状、東国武士の西遷を物語る熊谷家文書なども興味深いものと思われる。

3 重源と法然

古代以来仏教は、鎮護国家を第一の任務としてきた。仏法は国家の安泰をまもり、また、国家の安泰があってこそ仏法が栄えると考えられていた。しかし、貴族社会の安泰と秩序は、次第に力をつけてきた武士によって脅かされるようになってくる。加えて、南都北嶺の僧兵はたびたびの武力衝突を繰り返していた。このような世情において、末法時代の到来は現実味のあるものとなってきた。各地から出土している経塚の遺物は、平安時代末期の人々の不安な思いを物語る格好の資料といえる。

ときに、平重衡による東大寺の焼き討ちは、律令国家の終わりを象徴するできごとであった。東大寺再建の大勲進



東大寺瓦 瀬戸町教育委員会



国宝 餓鬼草紙 京都国立博物館

職となった重源は、みずから「南無阿弥陀仏」と号し、この護国の大寺の復興に力を注いだ。重源の広い知識と行動力は、あらゆる階層、広範な地域からの結縁者を集めた。備前国は東大寺の再建のための主要な経済基地のひとつとされ、数多くの瓦も焼かれ運ばれている。

法然は、美作国の地方武士の子として生まれた。法然の著した『選択本願念仏集』は、旧来の諸宗に様々な問題意識を投げかけることとなり、弾圧を受けることもあった。しかしその教えは、貴族ばかりでなく、武士や庶民にも受け入れられていった。貴族的な国家仏教から、民衆に解放された宗教に転換させた点で大きな意味をもつといえよう。

ここでは、平安時代末期の様々な経塚資料や、重源、法然二人の業績と信仰を語る資料を展示する。増上寺所蔵の重要文化財「法然上人伝」は、西日本では初めての公開となる。また、曹源寺（岡山市）に旧蔵されていた国宝「餓鬼草紙」（京都国立博物館所蔵）が、ひさびさに里帰りするのも楽しみである。



重要文化財 法然上人伝 東京 増上寺

主な展示資料

●国宝 ○県指定重要文化財

◎重要文化財 △市指定重要文化財

資料名 時代 所蔵者

〈平氏政権〉

- 紙本著色平治物語絵巻 断簡 鎌倉 大和文華館
 保元物語 写本 江戸 名古屋市蓬左文庫
 平治物語 写本 江戸 名古屋市蓬左文庫
 ●西行書状 宝簡集 第23 平安 金剛峯寺
 紙本著色西行物語絵巻 断簡 室町 個人
 平家物語 写本 江戸 岡山大学附属図書館
 宋銭 中国 宋 倉敷埋蔵文化財センター
 紙本墨画平家公達草紙 鎌倉 福岡市美術館
 ◎平宗盛消息 平安 国立歴史民俗博物館
 平家物語稿本 室町 京都市立芸術大学芸術資料館
 紙本著色経ヶ島縁起絵巻 江戸 東京国立博物館
 ◎紙本墨書御判物帖 平安 厳島神社
 ●紺紙金字法華経（平清盛・頼盛合筆）平安 厳島神社
 ●平家納経（法華経・般若心経・願文）平安 厳島神社
 ●金銀荘雲龍文銅製経箱 平安 厳島神社
 ◎舞楽面 平安 厳島神社

〈鎌倉幕府の成立〉

- 琵琶 伝白菊 江戸 熱田神宮
 平家物語（長門本）写本 江戸 岡山大学附属図書館
 源平盛衰記 写本 江戸 名古屋市蓬左文庫
 紙本著色平家物語図屏風 室町 神奈川県立博物館
 紙本著色源平合戦図屏風 江戸 兵庫県立歴史博物館
 紙本著色源平合戦図屏風 屋島合戦図 江戸 神戸市立博物館
 ●後白河院御手印起請文 宝簡集 第34 平安 金剛峯寺
 後白河法皇画像（複製） 神奈川県立博物館
 ●源義経書状 宝簡集 第33 平安 金剛峯寺
 ◎高山寺文書 聖教紙背屏風 平安 国立歴史民俗博物館
 紙本著色男衾三郎絵詞（模本） 東京国立博物館
 源頼朝袖判下文 鎌倉 神奈川県立博物館
 源頼朝画像（複製） 神奈川県立博物館
 ◎熊谷家文書 鎌倉 個人
 ◎金山寺文書 鎌倉 金山寺
 紙本著色小敦盛絵巻 室町 サントリー美術館

〈重源と法然〉

- 粉河経塚出土遺物 平安 奈良国立博物館
 輪積銅経筒（伝太宰府市四王子山経塚出土）平安 奈良国立博物館
 褐釉陶製経筒 中国 宋 奈良国立博物館
 ●紙本著色餓鬼草紙（曹源寺本）鎌倉 京都国立博物館
 紙本著色地獄草紙（模本） 東京国立博物館
 ◎石造弥勒如来坐像（長崎県壱岐郡郷ノ浦町鉢形嶺経塚出土）平安 奈良国立博物館

- ◎銅製宝塔形経筒（伝福岡県出土）平安 奈良国立博物館
 ◎安養寺裏山経塚出土遺物 平安 安養寺
 紺紙金字成実論卷第十五（神護寺経） 平安 文化庁
 神護寺経帙 平安 文化庁
 神護寺経櫃 平安 文化庁
 紺紙金字阿嚙力迦经（神護寺経）平安 木山寺
 紺紙金銀字交書大智度論卷第二十五（中尊寺経）平安 安住院
 △紺紙金字大般若経 平安 光明寺
 ○紺紙金字法華経 平安 千光寺
 重源上人坐像（複製） 岡山県立博物館
 南無阿弥陀仏作善集（複製） 岡山県立博物館
 ◎金山寺文書 鎌倉 金山寺
 ●俊乘房重源施入置文写 続宝簡集 第8 鎌倉 金剛峯寺
 紙本墨書大般若経（卷第二一四）鎌倉 東大寺
 ◎銅三角五輪塔形舍利塔 附 重源寄進状 鎌倉 胡宮神社
 浄土寺瓦 鎌倉 浄土寺
 東大寺瓦 奈良・鎌倉 東大寺
 東大寺鬼瓦 奈良 東大寺
 鑄型片（大仏殿回廊西南部出土） 鎌倉 東大寺
 溶解炉片（大仏殿回廊西南部出土） 鎌倉 東大寺
 吉備津宮常行堂瓦 鎌倉 吉備津彦神社
 ○吉備津神社行道面 鎌倉 吉備津神社
 ◎線刻十一面観音鏡像（萩蝶鳥文鏡） 平安 文化庁
 △播磨江ノ上経塚出土遺物 平安 加西市教育委員会
 ○木造阿弥陀如来立像および胎内摺仏 鎌倉 誕生寺
 ○絹本著色法然上人像 鎌倉 光明寺
 絹本著色法然善導二祖像 室町 岡山県立博物館
 紙本著色法然上人伝法絵 断簡 鎌倉 岡山県立博物館
 選択本願念仏集 写本 南北朝 龍谷大学図書館
 ◎紙本著色法然上人伝 鎌倉 増上寺
 ◎木造阿弥陀如来立像および胎内文書 鎌倉 玉桂寺
 ※一部の資料については期間中入れ替えがあります。

記念講演会（聴講無料）

日時：10月29日（土） 13：30～15：00

場所：岡山県立博物館講堂

講師：岡山大学名誉教授・神戸女子大学教授

石田 善人先生

演題：「平氏政権と岡山」

岡山県立博物館だより No.43

発行日 平成6年10月1日

発行者 岡山県立博物館

館長 中力 昭

岡山市後楽園1-5

☎(086)272-1149